



ウサギよ、来い

新しい年が始まりました。今年の十二支「卯」にちなんで今回はウサギ関連の話です。

本市に生息するウサギは、平地から山地の草原や森林に生息する日本固有種のニホンノウサギです。夜行性のため、滅多に目撃することはありませんが、人工林の伐採地や林縁部、明るい広葉樹林などで頻繁に痕跡を確認しています。ノウサギの痕跡といえば、Y字形に残る足あと、まん丸の可愛らしいフン、葉や茎を鎌でスパッと切ったような食べあとでしょう。その中で、足あとは足裏が毛に覆われていて残りづらいので普段目にするのが少ないですが、雪が降った後は観察しやすくなります。冬の森歩きの楽しみの一つです。

兎追いし彼の山〜♪で知られている「故郷」等の童謡や、日本の昔話に登場するウサギ。ふと、「植物には、昔話に登場するイヌやキツネの名がつく種が多い反面、ウサギの名がつく種は少ないなあ」と不思議に思いました。調べてみると、ツクバネウツギが別名ウサギカクシと呼ばれていることが分かりました。ツクバネウツギはスイカズラ科の落葉低木で、明るい林に自生し、市内でも普通に見ることができます。がく片が羽根つきをする時の羽根に似ていることと、ウツギの仲間似ていることからこの名がつけました。ちなみにウツギの花は、卯月（旧暦4月）に花を咲かせるので別名ウノハナと呼ばれています。ウサギカクシという別名は、よく分枝して茂る枝葉にウサギが隠れると見つからない、ということからこの名がつけました。

別名を知ってから、4月下旬頃から6月に咲く白～黄白色の花が可愛らしいウサギの形に見えてきました。そして、ウサギにとっては様々な天敵からかくまってくれる存在だからウサギカクシではなく「ウサギマモリ」かな、とかイメージが膨らんでいます。

最後に、今年の干支は「癸卯」^{みずのと う}です。植物の生長に例えると「癸」は種子の中の生命がはかれるほど成長した状態を表し、「卯」は草木が地面を覆う状態を表すという説があります。本市の自然にとっても、芽吹き多い一年となりますように。（加瀬澤）



ツクバネウツギの花